

# 新しいイチジク株枯病抵抗性台木「励広台1号」

食と農の研究部 葡萄グループ

## ■背景と目的

イチジクにおいて最も深刻な土壌病害であるイチジク株枯病に非常に強い抵抗性をもつ「励広台1号」が育成されました。

当所では、日本の主要品種で大阪府内の生産量の約9割を占める「柘井ドーフィン」を「励広台1号」に接いだ接ぎ木樹（以下、「励広台1号」台樹）の栽培特性を把握しました。

## ■調査方法と結果概要

### (1) 果実生産性

「励広台1号」の果実収量は定植3年目から大阪府経営指標の収量を上回りました（図1）。「励広台1号」台樹の果実品質は、「柘井ドーフィン」自根樹とほぼ同等でした（表1）。

### (2) 株枯病抵抗性

「励広台1号」台樹に株枯病菌を土壌接種しても、「励広台1号」台樹は枯死せず、生育や果実品質への悪影響は全くみられませんでした。

**「励広台1号」はイヌビワと同等の強い抵抗性を持ち、「励広台1号」台樹の生育や果実生産性は自根樹と大差なく、株枯病対策に非常に有効**

## ■今後の方向性

共同研究機関と作成した栽培手引書を用いて、「励広台1号」台樹の導入を検討している生産者への情報提供を実施します。

生研支援センター「イノベーション創出強化推進事業（課題番号：29029C）」の支援を受けて、本研究を実施した

イチジク株枯病の被害樹



「励広台1号」原木（農研機構提供）



イチジク主要品種「柘井ドーフィン」



図1 「励広台1号」台樹の収量の推移

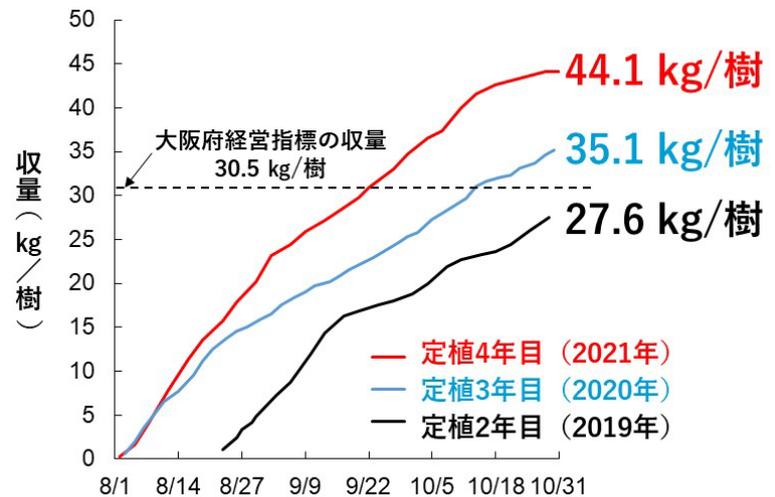


表1 「励広台1号」に接ぎ木した「柘井ドーフィン」の果実品質（定植4年目）

苗木の種類 <sup>1)</sup>	果実重 (g)	果皮色 <sup>2)</sup>			糖度 (°Brix)
		L	a	b	
「励広台1号」台樹	110	24.7	10.6	3.7	15.4
自根樹	91	25.8	9.4	4.3	15.3

1) 2018年3月に1年生苗を定植。一文字樹形で畝間2m、株間5m、結果枝24本。

2) ハンター表色系によるL (明度), a (- (緑) ⇄ + (マゼンダ)), b (- (青) ⇄ + (黄))。